

第32回新潟高血圧談話会

日時 平成13年11月30日(金)
午後6時30分
会場 新潟グランドホテル5階
常磐の間

臨床発表

1 早朝起床時の自己血圧測定の意義

——第二報——

鴨井 久司・宮腰 将史
阿部 英里・金子 晋 (長岡赤十字病院)
金子 兼三 (内科)

【目的】日本高血圧学会の血圧目標値は130/85 mmHg 以下であるが、2型糖尿病患者での血圧の適切な測定条件は確立していない。早朝高血圧は心血管イベントが多い(今井 潤:大迫研究)ことから早朝起床時の自己測定血圧の意義を検討した。

【対象】2型糖尿病170名で、平均年齢 66 ± 9 歳(40~84)、平均罹病期間 16.6 ± 7.9 年(1~39)、平均BMI 23.2 ± 2.8 kg/m²(18~33)、平均HbA1c 6.5 ± 0.9 % (4.9~9.5)。食事・運動療法17名、経口剤70名、インスリン58名、インスリンと経口剤25名。網膜症では単純20名、前増殖11名、増殖14名。腎症では微量アルブミン尿54名、顕性蛋白尿18名。陳旧性脳血管障害(CVD)31名、陳旧性虚血性心疾患(IHD)22名であった。

【方法】来院時、自動血圧計で130/85 mmHg以上を外来高血圧型(OH)、早朝起床時の起座での自己血圧測定が130/85 mmHg以上を早朝高血圧型(MH)とした。

【結果】OH型は131名(77%)でその中、MH型は74名(56%)、早朝正常型(MN)は57名(44%)であった。MH例では腎症51名(70%)、網膜症24名(33%)、両者異常(-)17名(25%)、IHD 6名(12%)、CVD 17名(25%)、両者異常(-)53名(68%)であった。一方、MN型では腎症は

皆無で、網膜症12名(22%)、両者異常(-)46名(82%)、IHDとCVDが各々6名(10%)、両者異常(-)44名(80%)と低頻度であった。

MH例での降圧薬服用は44名(59%)に対して、MN例は19名(37%)と少なかった。外来正常型(ON)は39名(23%)でその中、MH型は23名(59%)、MN型は16名(41%)であった。MH例では腎症21名(90%)、網膜症6名(35%)、両者異常(-)2名(8%)、IHD 7名(30%)、CVD 8名(35%)、両者異常(-)12名(55%)であった。他方、MN型では腎症は皆無で、網膜症1名(7%)、両者異常(-)15名(93%)、IHD、CVDも皆無であった。

MH型での降圧薬服用例は16名(70%)に対してMN型では1名(6%)と少なかった。

MHではMHの改善後、尿中アルブミン排泄率は 173.3 ± 50 mg/gCr から 48.2 ± 12.8 mg/gCr へ有意($P < 0.01$) ($N=57$)に減少した。

MHに対するOdds比は腎症では4.17、CVDは4.1、網膜症は2.1、IHDは2.0でMHの関与が強く示唆された。

【結論】2型糖尿病での細小血管障害や大血管障害の発症予防には早朝起床時の血圧測定が望まれる。

2 当院高血圧患者の脂質代謝異常について

濱 齊(木戸病院内科)

木戸病院高血圧・内分泌外来に通院する男148例、女245例の高血圧患者を対象として、脂質代謝異常について検討した。

高血圧治療は男147例、女241例に降圧薬が投与され、単独療法は男73例(49.7%)、女144例(59.8%)、降圧薬2剤による併用療法は男62例(42.2%)、女79例(32.8%)、3剤による併用療法は男12例(8.3%)、女18例(7.5%)に行われていた。単独療法で使用された降圧薬は、男女ともCa拮抗薬が最も多くそれぞれ57.5%、59.0%で、ACE阻害薬(以下ACEI)またはAII受容体拮抗薬(以下ARB)は男30.1%、女29.2%であった。 β 遮断薬は男9.6%、女10.4%、降圧利尿薬は女1.4%